2019・11・20【角川俳句賞2020】全12句

寧楽と書けば唐天竺や春霞
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
積りたる蕊の歳月山桜
山桜散るや即ち山の土
夏の夜に干されて長き褌かな
俳人や古茶の別れを惜しむべく
小夜更けて砂浜氷る波の音
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け
墨の香や探梅の日を心待ち
天の川あふるるばかり神の留守

2019・12・1【角川俳句賞2020】全32句

奈良山も唐天竺も春霞

うすら氷や飴玉舌のなすままに

残雪の踏み砕かれて割れて消ゆ

残雪の踏み砕かれて粉々に

残雪の踏み砕かれて割れて解け

残雪の踏み砕かれて土は濡れ

消印に消されし切手雁帰る

目の玉は二つのままに蝌蚪蛙

生家跡には一面の春の草

積りたる蕊の歳月山桜

山桜散るや即ち山の土

夏の夜に干されて長き褌かな

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな

バスのドア開くやうな音缶ビール

俳人や古茶の別れを惜しむべく

長き夜の胎内に夢うつつなり

長き夜の知に棹さすは科学の子

名月や水なみなみとダム満たす

玉道を歩むが如く鹿の角

ハミングは楽しからずや蚯蚓鳴く

鵙鳴くや泣き出しさうな空の色

金賞の菊労うて縁側へ

金賞の菊を労ふ日向ぼこ

春キャベツほどに銀杏の色付きぬ

干柿に憧れてゐる熟柿かな

木の紅葉道の紅葉と豊かなる

色変へぬ松を囃せる紅葉かな

小夜更けて砂浜氷る波の音

火事跡の黒き柱や雪女郎

幼子も嘘の時は立て続け

墨の香や探梅の日を心待ち

天の川あふるるばかり神の留守

17行3段組12ポ 2019年12月1日 21:20〈1〉桐9

2019・12・12【角川俳句賞2020】全29句

喉元まで来てゐる言葉嬰の春　奈良山も唐天竺も春霞

旧交を温めてゐる春の風　うすら氷や飴玉舌のなすままに

残雪は踏み砕かれて土は濡れ　消印に消されし切手雁帰る

目の玉は二つのままに蝌蚪蛙　生家跡には一面の春の草

積りたる蕊の歳月山桜　夏の夜に干されて長き褌かな

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな　俳人や古茶の別れを惜しむべく

長き夜の知に棹さすは科学の子　長き夜の胎内にゐて夢うつつ

名月や水なみなみとダム満たす　ベランダの屋根に色鳥透きとほる

王道を歩むが如く鹿の角　△ハミングも楽しからずや蚯蚓鳴く

鵙鳴くや泣き出しさうな空の色　△引かれ行く牛の筋骨草の花

△春キャベツほどに銀杏の色付きぬ　△干柿に憧れてゐる熟柿かな

△木の紅葉道の紅葉と豊かなる　色変へぬ松を囃せる紅葉かな

小夜更けて砂浜氷る波の音　火事跡の黒き柱や雪女郎

幼子も嘘の時は立て続け　墨の香や探梅の日を心待ち

△天の川あふるるばかり神の留守

2020・1・28【角川俳句賞2020全90】選38句

喉元まで来てゐる言葉嬰の春
奈良山も唐天竺も春霞
旧交を温めてゐる春の風
うすら氷や飴玉舌のなすままに
残雪は踏み砕かれて土は濡れ
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
生家跡には一面の春の草
積りたる蕊の歳月山桜
夏の夜に干されて長き褌かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
俳人や古茶の別れを惜しむべく
長き夜の知に棹さすは科学の子
長き夜の胎内にゐて夢うつつ
名月や水なみなみとダム満たす
ベランダの屋根に色鳥透きとほる
王道を歩むが如く鹿の角

アソビすぎ

ハミングも楽しからずや蚯蚓鳴く
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
引かれ行く牛の筋骨草の花
春キャベツほどに銀杏の色付きぬ
干柿に憧れてゐる熟柿かな
木の紅葉道の紅葉と豊かなる
色変へぬ松を囃せる紅葉かな
小夜更けて砂浜氷る波の音
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け
墨の香や探梅の日を心待ち
天の川あふるるばかり神の留守
下萌に土龍の穴の美しき
電柱や出水の町に灯を点す
水切の笊になりなば涼しかろ
切株を囲む走り根露けしや
少しづつ進む夜業の時計なり

17行3段組12ポ 2020年1月28日 11:25 〈1〉桐9

春の日が眩しや希望退職す
日射にも病ありけり日射病
見えてゐる島には寄らず鳥帰る
吾輩は西日に立てるポストなり

2020・1・28【角川俳句賞2020 全91】選27句

喉元まで来てゐる言葉嬰の春
春の日が眩しや希望退職す
奈良山も唐天竺も春霞
旧交を温めてゐる春の風
うすら氷や飴玉舌のなすままに
残雪は踏み砕かれて土は濡れ
消印に消されし切手雁帰る
見えてゐる島には寄らず鳥帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
生家跡には一面の春の草
下萌に土龍の穴の美しき
水切の笊になりなば涼しかろ
吾輩は西日に立てるポストなり
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
俳人や古茶の別れを惜しむべく
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月や水なみなみとダム満たす

切株を囲む走り根露けしや
少しづつ進む夜業の時計なり
王道を歩むが如く鹿の角
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
引かれ行く牛の筋骨秋桜
干柿に憧れてゐる熟柿かな
色変へぬ松を離せる紅葉かな
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年1月28日 13:02 〈1〉 桐9

2020・1・29【角川俳句賞2020 全106】選18句

春浅く水切籠の水たまり　墨の香や探梅の日を心待ち
うすら氷や飴玉舌のなすままに
残雪は踏み砕かれて土は濡れ
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
俳人や古茶の別れを惜しむべく
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月やダム湖の底の取水口
切株を囲む走り根露けしや
王道を歩むが如く鹿の角
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け

中

呼称

17行3段組12ポ　2020年1月29日　14:04　<1>　桐9

take ?

2020・3・7【角川俳句賞2020 全126句】選23句

春浅く水切籠の残り水
うすら氷や飴玉舌のなすままに
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
俳人や古茶の別れを惜しむべく
教室にプール終りし子がぞろぞろ
秋の夜に切手を愛でるルーペかな
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月やダム湖の中の取水口
切株を囲む走り根露けしや
王道を歩むが如く鹿の角
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな

荒海の向ふは佐渡や日短
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け
焚火みな手を結んでは開いては
墨の香や探梅の日を心待ち
白紙には返る術なき古日記

次回 tw では 応募要項

17行3段組12ポ 2020年3月7日 09:16 <1> 桐9

2020・3・10【角川俳句賞2020 全14句】選27句

春浅く水切籠の残り水
うすら氷や飴玉舌のなすままに
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ
苗代や発芽とは身を腐らせて
ルーペにて愛でる切手や春燈下
消印に消されし切手雁帰る
目の玉の二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を放ちし氷水を捨つ
俳人や古茶の別れを惜しむべく
言葉にも出涸らしのあり古茶淹れる
教室にプール終りし子がぞろぞろ
万緑の危ない橋を渡りけり
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月やダム湖の中の取水口
切株を囲む走り根露けしや
王道を歩むが如く鹿の角
鵙鳴くや泣き出しさうな空の色
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡や日短
火事跡の黒き柱や雪女郎
幼子も嘘の時は立て続け
湯豆腐やふつふつと我が考へる
墨の香や探梅の日を心待ち
白紙には返る術なき古日記

17行3段組12ポ　2020年3月10日　21:57　<1>　桐9

2020・3・12【角川俳句賞2020 全159】選20句

春浅く水切籠の残り水　幼子も嘘の時は立て続け
飴玉は舌のなすまま春氷　墨の香や探梅の日を心待ち
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ　白紙には返る術なき古日記
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を放ちし氷水を捨つ
教室にプール終りし子がぞろぞろ
万緑の危ない橋を渡りけり
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月やダム湖の中の取水口
王道を歩むが如く鹿の角
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡や日短
△火事跡の黒き柱や雪女郎

17行3段組12ポ　2020年3月12日　14:02　<1>　桐9

2020・3・13【角川俳句賞2020 全181句】選21句

春浅く水切籠の残り水　静かさや氷らんとして夜の水

飴玉は舌のなすまま春氷　幼子も嘘の時は立て続け

残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ　墨の香や探梅の日を心待ち

耕して土の断面ばかりなり　白紙には返る術なき古日記

消印に消されし切手雁帰る

目の玉は二つのままに蝌蚪蛙

下萌に土龍の穴の美しき

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな

白玉を冷ましつ十つ味見かな

教室にプール終りし子がぞろぞろ

万緑の中の危ない橋渡ろ

長き夜の知に棹さすは科学の子

名月やダム湖の中の取水口

王道を歩むが如く鹿の角

引かれ行く牛の貫禄秋桜

干柿は軒に熟柿は枝にかな

荒海の向ふは佐渡や日短

17行3段組12ポ　2020年3月13日　12:23〈1〉桐9

2020・3・14【角川俳句賞2020 全200句】選24句

春浅く水切籠の残り水
飴玉は舌のなすまま春氷
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ
耕して土の断面ばかりなり
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
荒梅雨やマンションもある大通り
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を冷ましつつちよと抓みもし
教室にプール終りし子がぞろぞろ
万緑の中の危ない橋渡ろ
長き夜の知に棹さすは科学の子
名月やダム湖の中の取水口
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
直立は花の幼き芒かな
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡や日短
店先に氷らむと夜の水たまり
幼子も嘘の時は立て続け
墨の香や探梅の日を心待ち
白紙へと返る術なき古日記

17行3段組12ポ　2020年3月14日　22:15　<1>　桐9

2020・3・15【角川俳句賞2020 全206句】選26句

春浅く水切籠の残り水　王道を歩むが如く鹿の角
春闌けて日だまりにある水たまり　直立は花の幼き芒かな
飴玉は舌のなすまま春氷　引かれ行く牛の貫禄秋桜
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ　干柿は軒に熟柿は枝にかな
耕して土の断面ばかりなり　荒海の向ふは佐渡や日短
消印に消されし切手雁帰る　幼子も嘘の時は立て続け
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙　みづからをなきものにする焚火かな
下萌に土龍の穴の美しき　墨の香や探梅の日を心待ち
荒梅雨やマンションもある大通り　白紙へと返る術なき古日記
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を冷ましつつちよと抓みもし
教室にプール終りし子がぞろぞろ
汗の香の一つ一つを夜濯へ
万緑の中の危ない橋渡ろ
長き夜の知に棹さすは科学の子
満月やダム湖の中の取水口
秋蝶は春を知らねどひらひらと

17行3段組12ポ　2020年3月15日　15:03　〈1〉桐9

2020・3・15【角川俳句賞2020 全221句】選27句

春なれや日だまりにある水たまり
春浅く水切籠の残り水
飴玉は舌のなすまま春氷
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ
耕して土の断面ばかりなり
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
下萌に土龍の穴の美しき
荒梅雨やマンションもある大通り
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を冷ましつつちよと抓みもし
教室にプールを終へし子がぞろぞろ
汗の香の一つ一つを夜濯へ
万緑の中の危ない橋渡ろ
長き夜の知に棹さすは科学の子
満月やダム湖の中の取水口
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
直立は幼き花の芒かな
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡や日短
幼子も嘘の時は立て続け
~~毛~~糸玉ほどの近さに本・積木
みづからをなきものにする~~焚火~~落葉かな
墨の香や探梅の日を心待ち
白紙へと返る術なき古日記

2020・3・16【角川俳句賞2020 全243句】選30句

春なれや日だまりにある水たまり
春浅く水切籠の残り水
飴玉は舌のなすまま春氷
残雪は踏み砕かれぬ土は濡れ
耕して土の断面ばかりなり
消印に消されし切手雁帰る
目の玉は二つのままに蝌蚪蛙
白梅や医者の卵の徹夜明け
下萌に土龍の穴の美しき
荒梅雨やマンションもある大通り
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白玉を冷ましつつちよと抓みもし
教室にプールを終へし子がぞろぞろ
汗の香の一つ一つを夜濯へ
万緑の中の危ない橋渡ろ
長き夜の知に棹さすは科学の子
満月やダム湖の中の取水口
秋蝶は春を知らねどひらひらと
玉道を歩むが如く鹿の角
直立は幼き花の芒かな
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡や日短
人気なきベンチに冬の鳩もゐず
湖は氷湖となつて日を拒む
幼子も嘘の時は立て続け
墨の香や探梅の日を心待ち
クリスマス基督もまた幸せに
みづからをなきものにする落葉焚
白紙へと返る術なき古日記

17行3段組12ポ　2020年3月16日　22:01　<1>　桐9

2020・3・17【角川俳句賞2020 全282句】選23句

春なれや日だまりにある水たまり　荒海の向ふは佐渡や日短
春浅く水切籠の残り水　幼子も嘘の時は立て続け
梅匂ふ医者の卵の徹夜明け　みづからをなきものにする落葉焚
残雪は踏み砕かれて土濡らす　白紙へと戻る術なき古日記
消印に消されし切手雁帰る　湖は氷湖となつて日を拒む
耕して土の断面ばかりなり　墨の香や探梅の日を心待ち
ひらひらと蝶々は春を越えられず
汗の香はよく遊びたる子らのシャツ
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
水の香のプール名残の子がぞろぞろ
万緑の中の危ない橋渡ろ
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
長き夜の知に棹さすは科学の子
満月やダム湖の中の取水口
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな

くろく、つめたく、おとをしく

へ）す 暗い、もっと明るく楽しく

2020・3・17【角川俳句賞2020 全285句】選23句

春なれや日だまりにある水たまり

春浅く水切籠の残り水

梅匂ふ医者の卵の徹夜明け

残雪の踏み砕かれて粉々に

消印に消されし切手雁帰る

耕して土の断面ばかりなり

ひらひらと蝶々は春を越えられず

汗の香はよく遊びたる子らのシャツ

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな

万緑の中の危ない橋渡ろ

水の香のプール帰りの親子連れ

秋蝶は春を知らねどひらひらと

王道を歩むが如く鹿の角

満月やダム湖の中の取水口

長き夜の知に棹さすは科学の子

引かれ行く牛の貫禄秋桜

干柿は軒に熟柿は枝にかな

荒海の向ふは佐渡や日短

幼子も嘘の時は立て続け

みづからをなきものにする落葉焚

白紙へと戻る術なき古日記

湖は氷湖となつて日を拒む

墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ　2020年3月17日　22:22　〈1〉桐9

2020・3・19【角川俳句賞2020 全299句】選28句

梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
山々に山の名を告げ春の風
春なれや日だまりにある水たまり
残雪の踏み砕かれて粉々に
春浅く水切籠の残り水
消印に消されし切手雁帰る
耕して土の断面ばかりなり
ビル裏は配管の巣や燕来る
ひらひらと蝶々は春を越えられず
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋渡ろ
今生の空を飛びゆく毛虫かな
水の香のプール帰りの親子連れ
汗の香はよく遊びたる子らのシャツ
朝顔に今朝は雨戸の開かずあり
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
引かれ行く牛の貫禄秋桜
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
みづからをなきものにする落葉焚
白紙へと戻る術なき古日記
結局は初案に戻る炬燵かな
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ　2020年3月19日　16:00　<1>　桐9

2020・3・19【角川俳句賞2020 全308句】選30句

梅匂ふ医者の卵の徹夜明け
残雪は踏み砕かれて粉々に
春浅く水切籠の残り水
春なれや日だまりにある水たまり
山の名を山に告げゆく春の風
耕して土の断面ばかりなり
消印に消されし切手雁帰る
お玉とはお玉杓子の頭なり
ビル裏は配管の巣や燕来る
ひらひらと蝶々は春を越えられず
波音は波の残骸松の芯
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたろ
今生の空を飛びゆく毛虫かな
水の香のプール帰りの五六人
汗の香はよく遊びたる子らのシャツ
朝顔に今朝は雨戸の開かずあり
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
引かれ行く牛の貫禄秋桜
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
みづからをなきものにする落葉焚
白紙へと戻る術なき古日記
結局は初案に戻る炬燵かな
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ　2020年3月19日　22:29　〈1〉桐9

2020・3・21【角川俳句賞2020 全331句】選27句

春浅し日だまりにある水たまり
残雪は踏み砕かれて粉々に
山の名を山に告げゆく春の風
耕して土の断面ばかりなり
お玉とはお玉杓子の大頭
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
ひらひらと花びらは春越えられず
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたろ
今生の空を飛びゆく毛虫かな
水の香のプール帰りの五六人
朝顔に今朝は雨戸の開かずあり
秋蝶は春を知らねどひらひらと
王道を歩むが如く鹿の角
引かれ行く牛の貫禄秋桜
ひとところ皺美しき熟柿かな

満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
干柿は軒に熟柿は枝にかな
夜行バス車庫に戻りぬ昼の虫
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
みづからをなきものにする落葉焚
白紙へと戻る術なき古日記
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ　2020年3月21日　15:27　<1>　桐9

2020・3・21【角川俳句賞2020 全352句】選26句

麓かや日だまりにある水たまり
山の名を山に告げゆく春の風
耕して土の断面ばかりなり
お玉とはお玉杓子の大頭
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
波音の夜空に消ゆる松の芯
ひらひらと花びらは春越えられず
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたろ
今生の空を飛びゆく毛虫かな
水の香のプール帰りの五六人
朝顔に今朝は雨戸の開かずあり
ひらひらと春を知らざる秋の蝶
王道を歩むが如く鹿の角
引かれ行く牛の貫禄秋桜
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
干柿は軒に熟柿は枝にかな
夜行バス車庫に戻りぬ昼の虫
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
みづからをなきものにする落葉焚
白紙へと戻る術なき古日記
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年3月21日 21:12 〈1〉 桐9

2020・3・22【角川俳句賞2020 全366句】選28句

春はまだ日だまりにある水たまり

山の名を山に告げゆく春の風

耕して土の断面ばかりなり

天井に届く悲しみ涅槃絵図

お玉とはお玉杓子の大頭

消印に消されし切手雁帰る

ビル裏に配管の巣や燕来る

これは花これは花びらひらひらと

波音の夜空に消ゆる松の芯

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな

万緑の中の危ない橋わたろ

咥へられいまはの空を行く毛虫

水の香のプール帰りの五六人

朝顔に今朝は雨戸の開かずあり

ひらひらと春を知らざる秋の蝶

王道を歩むが如く鹿の角

引かれ行く牛の貫禄秋桜

満月やダム湖の中の取水口

長き夜の知に棹さすは科学の子

夜行バス車庫に戻りぬ昼の虫

干柿は軒に熟柿は枝にかな

切株と刈田と距離を置きにけり

荒海の向ふは佐渡よ日短

幼子も嘘の時は立て続け

みづからをなきものにする落葉焚

白紙へと戻る術なき古日記

湖は氷湖となつて日を拒む

墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年3月22日 23:07 〈1〉 桐9

2020・5・6【角川俳句賞2020 全389句】選31句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
仏生会桜餅など良からずや
お玉とはお玉杓子の大頭
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひの二階の窓に子猫をる
これは花これは花びらひらひらと
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て川塩辛き五月かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中や危ない橋わたろ
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
青々と晴れ晴れと天高きかな
朝顔に今朝は雨戸の開かずあり

追ふ馬は何処へゆきしすいっちよん
白も黄も春を知らざる秋の蝶
王道を歩むが如く鹿の角
引かれ行く牛の貫禄秋桜
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
夜行バス滴り洗ふ昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切株と刈田と距離を置きながら
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
白紙へと戻る術なき古日記
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

2020・5・8【角川俳句賞2020 全393句】選27句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
お玉とはお玉杓子の大頭
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひの二階の窓に子猫をる
これは花これは花びらひらひらと
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
追ふ馬は何処へゆきしすいつちよん
白も黄も春を知らざる秋の蝶
王道を歩むが如く鹿の角
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
夜行バス滴り洗ふ昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切株は刈田と距離を置きながら
荒海の向ふは佐渡よ日短
幼子も嘘の時は立て続け
白紙へと戻る術なき古日記
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

花満ちて風なき空へひろひろと

門の風をたやさぬさくらんぼ

2020・5・9【角川俳句賞2020 全395句】選26句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひの二階の窓に子猫鳴く
花満ちて風なき空にひらひらと
波音の夜空に消ゆる松の芯
初夏やチクッとしますよと注射
海へ出て五月の川の塩辛き
名門の血を絶やさずにさくらんぼ
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
追ふ馬は何処へゆきしすいっちょん
白も黄も春を知らざる秋の蝶
王道を歩むが如く鹿の角
満月やダム湖の中の取水口
長き夜の知に棹さすは科学の子
夜行バス滴り洗ふ昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切株は刈田と距離を置きながら
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月9日 19:51〈1〉桐9

2020・5・11【角川俳句賞2020 全399句】選24句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひの二階の窓に子猫鳴く
花満ちて風なき空にひらひらと
波音の夜空に消ゆる松の芯
初夏やチクッとしますよと注射
海へ出て五月の川の塩辛き
名門の血を絶やさずにさくらんぼ
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
追ふ馬は何処へゆきしすいっちょん
白も黄も春を知らざる秋の蝶
王道を歩むが如く鹿の角
満月やダム湖の中の取水口
タクシーの出払つてゐる昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ　2020年5月11日　20:38　〈1〉桐9

2020・5・12【角川俳句賞2020 全400句】選24句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひの二階の窓に子猫鳴く
花満ちて風なき空にひらひらと
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
名門の血を絶やさずにさくらんぼ
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
初秋の注射チクッとしますよと
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へゆきしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
満月やダム湖の中の取水口
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月12日 21:33 <1> 桐9

2020・5・14【角川俳句賞2020 全413句】選25句

浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
名門の血を絶やさずにさくらんぼ
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
初秋の注射チクッとしますよと
白も黄も春を知らざる秋の蝶

追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
満月やダム湖の中の取水口
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月14日 14:42 〈1〉 桐9

2020・5・15【角川俳句賞2020 全418句】選26句

浅春の日だまりにある水たまり　王道を歩むが如く鹿の角
耕して土の断面ばかりなり　タクシーの出払つてゐる昼の虫
天井に届く悲しみ涅槃絵図　干柿は軒に熟柿は枝にかな
消印に消されし切手雁帰る　踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
ビル裏に配管の巣や燕来る　満月やダム湖の中の取水口
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー　荒海の向ふは佐渡よ日短
破裂して風船消ゆる桜かな　湖は氷湖となつて日を拒む
波音の夜空に消ゆる松の芯　墨の香や探梅の日を心待ち
海へ出て五月の川の塩辛き　春を待つ注射チクッとしますよと
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
万緑の中の危ない橋わたる
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん

17行3段組12ポ　2020年5月15日　15:30〈1〉桐9

2020・5・15【角川俳句賞2020 全434句】選28句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし　白も黄も春を知らざる秋の蝶

枯草の火力恐ろし畦を焼く　追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん

浅春の日だまりにある水たまり　王道を歩むが如く鹿の角

耕して土の断面ばかりなり　タクシーの出払つてゐる昼の虫

天井に届く悲しみ涅槃絵図　干柿は軒に熟柿は枝にかな

消印に消されし切手雁帰る　踏まれたる木の実の白き悲鳴なり

ビル裏に配管の巣や燕来る　満月やダム湖の中の取水口

川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー　荒海の向ふは佐渡よ日短

破裂して風船消ゆる桜かな　湖は氷湖となつて日を拒む

波音の夜空に消ゆる松の芯　墨の香や探梅の日を心待ち

海へ出て五月の川の塩辛き　春を待つ注射チクッとしますよと

さくらんぼ美しき血を絶やさずに

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな

万緑の中の危ない橋わたる

咥へられいまはの空を行く毛虫

水の香のプール帰りの五六人

飛行場周辺の草刈つてをる

17行3段組12ポ　2020年5月15日　16:57〈1〉桐9

2020・5・15【角川俳句賞2020 全435句】選29句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
咥へられいまはの空を行く毛虫

余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ注射チクッとしますよと

17行3段組12ポ 2020年5月15日 21:05 〈1〉 桐9

2020・5・15【角川俳句賞2020 全437句】選35句

バスのドア開くやうな音缶ビール
煮凝の白身魚の平べつた
しぐるるや角の生えたる砂糖菓子
波音は波の残骸松の芯
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音の夜空に消ゆる松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに

万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
咥へられいまはの空を行く毛虫
余生なほばたばた扇ぐ団扇かな
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
荒海の向ふは佐渡よ日短
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ注射チクッとしますよと

17行3段組12ポ　2020年5月15日　21:37〈1〉桐9

春の服レインコートに透きとほる

おこと抜くかプシュと開けるか　生ビール
おこと抜き　プシュと開けるは　ビールなう
春の服に　チクッとしますよ　と言はれ
春色し　チクッとしますよ　と注射　と腕に
しますけど

2020・5・16【角川俳句賞2020 全447句】選36句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
春の服レインコートに透きとほる
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか

咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
ポンと抜くかプシュと開けるか生ビールなり
余生なほばたばた扇ぐ団扇かなたり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷が野分に揺れてゐるテレビ
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角の数
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた

湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月16日 15:53 〈1〉 桐9

2020・5・16【角川俳句賞2020 全459句】選36句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
春の服レインコートに透きとほる
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか
咥へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
ポンと抜くビール尽きればプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷のシーン野分に大揺れの
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角の数
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月16日 21:11 <1> 桐9

2020・5・17【角川俳句賞2020 全470句】選36句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
春の服レインコートに透きとほる
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
蝉の穴しづか蟻の穴にぎやか

啞へられいまはの空を行く毛虫
水の香のプール帰りの五六人
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の現在を見る野分かな
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた

湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月17日 09:36 <1> 桐9

2020・5・18【角川俳句賞2020 全480句】選35句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
春の服レインコートに透きとほる
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫

飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
シャワー浴ぶ四方の壁も流しやる
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様を茶の間にて
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた
湖は氷湖となつて日を拒む

墨の香や探梅の日を心待ち

17行3段組12ポ 2020年5月18日 21:53 〈1〉 桐9

11+11+9+5

2020・5・19【角川俳句賞2020 全487句】選36句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
シャワー浴ぶ四方の壁も流しやる
皿の上に豆腐を置けば冷奴
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も映りをる
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた
湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

子の髪の匂ひや流ひやる
匂ひこたかめ

123 バレー数文商ゲイコ

17行3段組12ポ 2020年5月19日 15:57 <1> 桐9

2020・5・20【角川俳句賞2020 全492句】選36句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
飛行場周辺の草刈つてをる

マンションの又も建ちたる西日かな
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
煮凝の白身魚の平べつた
１２３ダンス教室初稽古

17行3段組12ポ 2020年5月20日 09:10〈1〉桐9

湖は氷湖となつて日を拒む
墨の香や探梅の日を心待ち

2020・5・20【角川俳句賞2020 全495句】選38句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
飛行場周辺の草刈つてをる

マンションの又も建ちたる西日かな
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
流木に水着を干してキャンプの夜
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
１２３ダンス教室初稽古

17行3段組12ポ 2020年5月20日 23:18 <1> 桐9

湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
煮凝の白身魚の平べつた
墨の香や探梅の日を心待ち

2020・5・22【角川俳句賞2020 全516句】選47句

17行3段組12ポ　2020年5月22日　14:12〈1〉桐9

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の見ゆるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
身を以て蠅に穢れし蠅叩

飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
流木に水着を干してキャンプの夜
しげしげと闇を眺むる花火の間
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝に垂れ
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
日向ぼこ心はここにあらねども

時雨るるや金平糖の角かじる
荒海の向ふは佐渡よ日短
去年今年物音もなき真の闇
１２３ダンス教室初稽古
湖は氷湖となつて日を拒む
焼芋の甘さ鯛焼の甘さかな
ざくざくと家族のための根深汁
魚屋の雪ふるころの品揃へ
煮凝の白身魚の平べつた
墨の香や探梅の日を心待ち
立冬や割れぬコップで漱ぐ
ラグビーやボールも汗に塗れたる
春を待つ四角の箱や猫を入れ

11+12+10+12+2

2020・5・22【角川俳句賞2020 全520句】 選47句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
身を以て蠅に穢れし蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
しげしげと闇を眺むる花火の間
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
立冬や割れぬコップで漱ぐ

17行3段組12ポ 2020年5月22日 16:24 <1> 桐9

時雨るるや金平糖の角欠けて
日向ぼこ心はここにあらねども
焼芋の甘さ鯛焼の甘さかな
ざくざくと家族のために葱刻む
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
去年今年物音もなき真の闇
123ダンス教室初稽古
ラグビーやボールも汗に塗れたる
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ四角の箱や猫を入れ

2020・5・23【角川俳句賞2020 全553句】選45句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
明るさの明日を信じて火取虫
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
立冬や割れぬコップで漱ぐ

17行3段組12ポ　2020年5月23日　17:48〈1〉桐9

時雨るるや金平糖の角欠けて
ざくざくと家族のための葱刻む
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
幼子の大きなあくび初日の出
ラグビーのボールも汗に塗れたる
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ小さな箱に猫ねむる

梅雨の良い月はつりっーをカコウたり

2020・5・24【角川俳句賞2020 全597句】選56句

明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
川沿ひに子猫の出づるバルコニー
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる

マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
ポンと抜くビール家ではプシュと開け
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
明るさの明日を信じて火取虫
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
立冬や割れぬコップで漱ぐ
時雨るるや金平糖の角欠けて

17行3段組12ポ　2020年5月24日　21:43 <1> 桐9

ざくざくと家族のための葱刻む
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
幼子の大きなあくび初日の出
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ小さな箱に猫ねむる
いだかれてラグビーボール汗みどろ
海へ出て五月の川の塩辛き
トンネルの入口に舞ふ春の雪
悲しさや風邪の母から引き離され
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
何食つて声の大きな寒鴉
水仙を取り囲みたる書斎の書
雪折の現場近くを通りけり

2020・5・24【角川俳句賞2020 全597句】選56句

大年の

年歩むその足音を聞かんとす 寺院に入る音

御降の後の日和の定まりぬ

歌留多取る水仕で冷えし手が強し

双六の勝ち負けにみな笑ふかな なり

初夢の懐しき場所そして人

めでたさの月雪花を日本の四季折り折りを絵双六

17行3段組12ポ 2020年5月24日 21:43 〈2〉桐9

2020・5・25【角川俳句賞2020 全602句】選50句

トンネルの入口に舞ふ春の雪
明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
明るさの明日を信じて火取虫
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
切り出して柱のごとし新豆腐
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
立冬や割れぬコップで漱ぐ
ざくざくと家族のための葱刻む
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
行く年のその足音を聞かんとす
幼子の大きなあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
めでたさの月雪花の絵双六
いだかれてラグビーボール汗みどろ
何食つて声の大きな寒鴉
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春を待つ小さな箱に猫ねむる

17行3段組12ポ 2020年5月25日 09:42 <1> 桐9

2020・5・25【角川俳句賞2020 全616句】選48句

17行3段組12ポ 2020年5月25日 18:45〈1〉桐9

トンネルの入口に舞ふ春の雪
明暗の春や根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
明るさの明日を信じて火取虫
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
満月やダム湖の中の取水口
落としても割れぬコップや今朝の冬
ざくざくと家族のための葱刻む
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
幼子の大きなあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
双六に負けたることの目出度さよ
いだかれてラグビーボール汗みどろ
何食つて声の大きな寒鴉
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

2020・5・26【角川俳句賞2020 全654句】選51句

トンネルの入口に舞ふ春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿の上に豆腐を置けば冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
明るさの明日を信じて火取虫
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちょん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べる秋の暮
満月やダム湖の中の取水口
秋深しへうたんいよよへうたんに
落としても割れぬコップを今朝の冬
ざくざくと葱を刻んで子沢山
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
幼子の大きなあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
空を行く橇より大き宝船
負けてやる筈の双六勝ちさうな
何食つて大きな声の寒鴉
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

17行3段組12ポ　2020年5月26日　13:15〈1〉桐9

2020・5・26【角川俳句賞2020 全660句】選51句

辞書の項おほかた読まず天の川
トンネルの入口に舞ふ春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
干傘の滴り光る蝸牛
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む

啞へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿の上に豆腐を置けば冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べて秋の暮
満月やダム湖の中の取水口

秋深しへうたんいよよへうたんに
ざくざくと葱を刻んで子沢山
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
大いなる赤子のあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
負けてやる筈の双六勝ちさうな
何食つて大きな声の寒鴉
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

17行3段組12ポ　2020年5月26日　17:07　〈1〉桐9

2020・5・28【角川俳句賞2020 全688句】選51句

トンネルを出でて明るし春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
干傘のきらきら光る蝸牛
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿の上に豆腐すなはち冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
爆発に花火の空の不死身かな
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べて秋の暮
秋風に吹かるるままに帰るべし
満月やダム湖の中の取水口
秋の夜に学ぶは楽しチョコレート
落としても割れぬコップを今朝の冬
ざくざくと葱を刻んで子沢山
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
大いなる赤子のあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
負けてやる筈の双六勝ちさうな
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

17行3段組12ポ　2020年5月28日　10:21〈1〉桐9

2020・5・28【角川俳句賞2020 小さき箱 全700句】選51句

3段組12ポ 2020年5月28日 14:09 <1> 桐9

トンネルを抜けて明るし春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
ビル裏に配管の巣や燕来る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
干傘のきらきら光る蝸牛
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿に置く豆腐すなはち冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
爆発の大爆発の揚花火
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べて秋の暮
秋風に吹かるるままに飛び去りぬ
満月やダム湖の中の取水口
秋の夜に学ぶは楽しチョコレート
落としても割れぬコップを今朝の冬
ざくざくと葱を刻んで子沢山
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
大いなる赤子のあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
負けてやる筈の双六勝ちさうな
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

2020・5・28【角川俳句賞2020 小さき箱 全702句】選50句

3段組12ポ 2020年5月28日 16:02 <1> 桐9

トンネルを抜けて明るし春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
傘のきらきら光る蝸牛
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩
飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿に置く豆腐すなはち冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
爆発の大爆発の揚花火
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいっちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べて秋の暮
秋風に乗つて遠くへ飛び行けり
満月やダム湖の中の取水口
秋の夜に学ぶは楽しチョコレート
落としても割れぬコップを今朝の冬
ざくざくと葱を刻んで子沢山
小魚が寄る鮟鱇の冷たき灯
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
煤逃のロマンスカーは鮭の色
大いなる赤子のあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
負けてやる筈の双六勝ちさうな
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫

2020・5・29【角川俳句賞2020 小さき箱 全716句】選50句

行3段組12ポ 2020年5月29日 10:15 〈1〉 桐9

トンネルを抜けて明るし春の雪
明暗の春よ根を張り芽を伸ばし
枯草の火力恐ろし畦を焼く
浅春の日だまりにある水たまり
耕して土の断面ばかりなり
天井に届く悲しみ涅槃絵図
春の風邪チクッとしますよと言はれ
消印に消されし切手雁帰る
破裂して風船消ゆる桜かな
波音は波の残骸松の芯
海へ出て五月の川の塩辛き
さくらんぼ美しき血を絶やさずに
千傘は開き蝸牛は渦巻いて
万緑の中の危ない橋わたる
土嚢の如く金魚掬ひの子ら蹲踞む
咥へられいまはの空を行く毛虫
自らも穢れて哀し蠅叩

飛行場周辺の草刈つてをる
マンションの又も建ちたる西日かな
余生なほばたばた扇ぐ団扇なり
皿に置く豆腐すなはち冷奴
子の髪の匂ひ確かめ洗ひやる
流木に水着を干してキャンプの夜
爆発の大爆発の揚花火
よく遊びよく学ぶべき秋のチョコ
秋風に乗つて遠くへ行く虫ぞ
白も黄も春を知らざる秋の蝶
追ふ馬は何処へ行きしすいつちよん
王道を歩むが如く鹿の角
タクシーの出払つてゐる昼の虫
故郷の野分の様も少し映る
干柿は軒に熟柿は枝にかな
踏まれたる木の実の白き悲鳴なり
親子丼親子で食べて秋の暮

満月やダム湖の中の取水口
落としても割れぬコップを今朝の冬
ざくざくと葱を刻んで子沢山
煮凝の白身魚の平べつた
荒海の向ふは佐渡よ日短
小魚を寄せ鮟鱇の冷たき灯
煤逃のロマンスカーは鮭の色
大いなる赤子のあくび初日の出
御降の後の日和の定まりぬ
負けてやる筈の双六勝ちさうな
湖は氷湖となつて日を拒む
魚屋の雪ふるころの品揃へ
雪折の現場近くを通りけり
水仙を取り囲みたる書斎の書
墨の香や探梅の日を心待ち
春待つや猫より小さき箱に猫